

受胎率向上を学ぶ

3/25 福山市・近藤仕出し店



福山地方酪農協議会(山本芳紀会長)は、大仙祭と勉強会を開催し、会員のほか関係者ら十三名が参加した。

大仙祭では乳用牛の御霊への感謝と酪農繁栄を祈念し、勉強会では全

酪連大阪支所中四国事務所の研究員・加藤秀幸獣医師を講師に招き、広酪からは隅屋寒三専務、樽好美子所長、竹ノ内寛治主任が出席した。

加藤獣医師は「種がとまらない牛」の判断を誤って飼料設計を変えると過肥になる。むしろ3週間程度で発情したかどうかを、獣医に確認することで「早期発見」「早期治療」となり、効果的」と指摘された。

講演後の懇親会では、隅屋専務から「繁殖障害は一番重要な課題である。疾病予防対策をしつかりお願ひし、広酪の3M事業や育成事業等の事業利用をもって今後の経営に役立ててほしい」と述べた。

庄原地域酪農振興会

3/14 庄原市ふれあいセンター

飼料イネ「たちすずか」に興味深々



庄原地域酪農振興会(林 智行会長)は、庄原市酪農連絡協議会・庄原みるくの会・庄原メンバーズクラブ合同による『飼料イネ「たちすずか」』をテーマとした研修会を開催し17名が参加した。講師には広島県畜産技術センターと広島県北部農業技術指導所の担当者が招かれ、たちすずかの特徴や庄原市での生育経過、県内の事例紹介等が説明された。

平成24年度の県内の飼料イネ栽培面積は226haで、その内「たちすずか」は200haと約9割を占め、現在、飼料稲の作付け品種の切替を検討している参加者は、収穫時期や収穫機械に大変興味深々の様子で、たちすずか栽培に向けた質問や意見があり、意欲の高さが伺えた。

三原市酪農振興会

3/12 久井倉庫

慰霊祭で乳用牛に感謝

三原市酪農振興会(新舎和久会長)は、牛の追悼慰霊祭を行い、会員の他関係者ら十九名が参加し、地元住職による佛説阿弥陀経の読経をもって息災供養が執り行われた。

新舎会長は挨拶で「二年前の3・11の震災で被災された方と比べると恵まれている私達は農業を頑張つて行かなければならないと感じた。牛に対しても感謝をし、飼養管理に力を入れて行きましよう。T P P・円安で飼料価格が値上がりし大変ですが、皆さん頑張つて行きましよう」と力強い言葉で述べられた。



来賓からは三原市長代読挨拶、蔵崎哲治課長補佐(広酪事業推進課)からは酪農情勢を報告し、関係機関からも情報提供が行われた。

その後は、昼食をとりながらの意見交換を行い、人間の為に尊い犠牲となった牛たちへの法要を終えた。

乳・和複合経営も 視野に取り組む

広島市酪農振興協議会(渡辺和裕会長)は総会を開催し、会員ほか関係団体十六名が出席した。渡辺会長は挨拶で「酪農状況は円安に伴い飼料価格が高騰し大変厳しい状況にある。当協議会は過去より和牛受精卵移植事業による子牛販売等で収益向上の取り組みを行ってきた。これは先を見据えた良い事業であると確信している。今後は和牛受精卵と酪農経営の乳和複合経営も視野に入れ研鑽したい」と述べた。

総会では平成二十四年度決算並びに平成二十五年度予算が上程承認された。総会終了後は、広島県西部畜産事務所長の澤氏から『牛白血病』をテーマに講演が行われ、「平成十年に家畜伝染病予防法の届出疾病に指定。急速な発生増加が明らかとなった。特に酪農では『北低・南高』の傾向。特に九州では調査農家の要請割合が九十%と高く、北海道では五十%と低位(近畿・中国・四国は八十%)。感染要因も吸血昆虫に比べ、注射器・直腸検査で機具等の使い回しが大きき要因。獣医師等ではしっかりとした管理が行われているが、酪農家での直検手袋等の扱いに注意が必要。また、直接感染より平行感染が多いことから、抗体陽性牛の初乳を凍結する際はマイナス二十℃以下の凍結が必要で、家庭用の冷凍庫では初乳中心部までの凍結が懸念される」等と出席者らに注意を促された。



「移行期管理向上」情報交換でレベルアップを図る

甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長、組合員 20 戸)は、勉強会を担当する松本芳組合員の企画で移行期管理の勉強会を開催した。

今回の目的は、同組合管内の組合員の移行期管理を調査し、相互の成功・失敗事例をもって情報交換を図ることによって「乳用牛事故の減少・乳量UP・酪農経営」の向上を図ることとし、「移行期中の飼養給与量」と「疾病状況とその対応方法」の管内での調査結果を基にして意見交換を行った。

これらの結果から疾病傾向に対してカルシウムや強肝剤を前もって予防的に給与し、早めに獣医を呼ぶことが重要とまとめた。

広酪からは「カルシウムの必要性」と「乳牛の健康

管理」について触れ、広酪重点品目 13 品目の中から移行期に関わる商品(カウライザー、カーブエイド、HR1014C、快肝)と移行期用TMRを紹介推進した。

伊達薫組合長は「一つの対応で全てが良くなることは無い。悩み事等があれば、広酪や会員に相談し、相互に飼養管理技術の向上を目指して、酪農家戸数が減って行かないように努力して行きましょう」と締めくくった。



視察研修会

口和酪農組合女性会(石富まち子会長、会員四名)は、視察研修会を実施し、広酪事業推進課から高松係長が同行した。

伊藤牧場は、ほぼ100%自家育成型の牧場で現在搾乳牛九十五頭、育成牛五十頭、経営者の伊藤篤男さんと後継者、その他一名の従業員で管理されていた。

会員は、牧場の視察後、後継者のお嫁さんが経営されている地元「カウベル」で買ったパン屋とフォーゲルパーク(写真)で日頃の疲れを癒された。

